

あそぶ、まなぶ、いきる。

山と溪谷社

An impress Group Company

各 位

2026年2月24日

株式会社 山と溪谷社

<https://www.yamakei.co.jp/>

## グリーンランド、地球最北の村で伝説の猟師になった大島育雄の名著 『エスキモーになった日本人』がついに復刊！

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、ヤマケイ文庫『エスキモーになった日本人』（大島育雄：著）を発刊しました。



「本書を読めば、ここでの生活がいかに生きることを作り上げるものであるかがわかると思う。」

「大島さんはエスキモーの伝統を身につけた本当の猟師であり、生きる伝説です。」

角幡唯介氏、推薦！！

グリーンランド・シオラパルク。北緯七十七度四十七分、西経七十度四十六分。北極点まで千三百キロ——世界最北の村に単独で入り、エスキモーとなった伝説の日本人、大島育雄。彼は今も同地で猟をして暮らしています。

植村直己との交流、キビヤの洗礼、犬橇の習得、結婚、借金生活、北極点到達、ナロオホイヤの思想——。エスキモーたちのたくましさにも圧倒されながらも、酷寒の地で生きるための知恵と工夫、生きざまに魅了されたという著者。

極北で「猟という、人類にもっとも古い職業の一つにたずさわる」ことを決めた男の物語。解説は、極地旅行家

であり作家の角幡唯介氏。

1989年発刊の名著『エスキモーになった日本人』(文藝春秋)に解説と新たな写真を追加した、待望の復刊・文庫化です。



### 雷鳥に化かされる

雪の斜面でウサギ狩りをした。短時間に首尾よく四羽ばかり仕留め、さて引き上げようとする、近くで雷鳥の声が出た。「グアーグアー」という、カエルのようなダミ声である。

これは、しめた。雷鳥の肉は久しぶりだ。

私は注意深く雪をふみしめ、雷鳥の姿をさがした。白い雪の上でも、よく見れば鳥の白は見分けがつく。ところが、どうしたことか、声はすれども、さっぱり姿が見つからない。いつの間にか雷鳥さがしに没頭してしまい、ウサギ狩りのことなど、すっかり忘れてしまった。しかし、追えど、さがせど、ついに雷鳥は見えてきた。気がついたときには家の前に立っていたのだが、なんと、せっかく獲ったウサギを忘れてきているのである。キツネにつままれたというのは、きつとこんな気分なのだろう。

イミーナ老人に話すと、おもしろそうに笑っていた。

「雷鳥ってやつは、たまにそういうことをするもんだ」

グリーンランドでは、キツネではなく、雷鳥が人を化かすらしい。雷鳥が例のダ

ミ声で、私をあざけているように思われた。いきなりおどろかされて飛び上がり雷鳥になってしまったという女の子の恨みでもあろうか。

「そういえば……」というわけで、イミーナ老人はこんな寓話を語ってくれた。

——昔、雪フクロウ（オツビ）が二羽のウサギを見つけた。一羽だけ獲ればよかったのに、この雪フクロウは欲をだして、片足に一羽ずつ、ワシづかみにしようとした。その瞬間、二羽のウサギは同時にビヨーンと逆方向へ跳ねた。ウサギの後ろ脚のパネは強い。雪フクロウは股を傷め、それっきり獲ができなくなってしまった……。

すなわち「二兎を追うものは一兎も得ず」である。

### イミーナ老人の昔ばなし

十六年前、はじめて私の顔を見たシオラバルクの人は、口ぐちに言い合ったそうだ。

「イミーナの若い頃にそっくりだ」

「イミーナが昔どっかにつくった子じゃないのか？」

## 〇もくじ

復刊に寄せて 大島育雄

### 一 最北の村

二十五歳で最北の村へ／植村直己さんの笑顔に安心／まず排便作法／キビヤの洗礼／真上に輝く北極星／極地の魅力／子供たちが言葉の先生／オヒョー釣り／意外な獲物／発酵と腐敗

### 二 見習い猟師

ふらりとプラット／ある失敗／犬橇をもつ／初めての獲物／風下を向いて寝るアザラシ／植村さんが怒った／「植村語」／五百点近く民具を収集／ピアリーの孫

### 三 結婚

運命をわけた日大山岳部／TV取材班に同行して／エスキモーという呼称／エスキモーの歴史／無線連絡で結婚話／最北の村の長老／銚頭と柄／赤ん坊の命名法

### 四 北極点遠征

大きなヘソ／犬百十六頭が酸欠死／犬の事故で計画変更／悪戦苦闘／エスキモーと隊員の摩擦／植村さんと「競争」／盆栽と北極／ポンポン船「沈み丸」

### 五 嵐

酔っぱらいの横行／ピーターの急死／五本牙のセイウチ／「ないよ、どこにも」／借金生活／でっかい獲物／植村さんの悲報／失敗と教訓

### 六 照る日 曇る日

雷鳥に化かされる／イミーナ老人の昔ばなし／怪談・伝承／犬と結婚した娘の話／金星の伝説／方向をさがす方法／極北で生きる知恵／猟のライセンスは三種類／自然を相手に

### 七 四季の猟 春夏

犬橇／白クマ狩り／ウサギ猟／セイウチ猟／アツパリアス獲り／アザラシ猟／イッカク猟／白イルカ漁／トナカイ狩り

### 八 四季の猟 秋冬

氷／アザラシの網猟／キツネ罠猟／ウサギの罠猟／セイウチを獲る／セイウチの解体／皮の値段

### 九 村の生活

……のようなもの／ナイフを片手に車座で／酒の制度／キリスト教の浸透／村に一台の電話／夜ふかしの子供たち／猟の実習もある義務教育／神経痛と虫歯／猟師列伝

### 十 発電所計画

私は猟師なのだ／文明圏の垂れ流しのツケが／ダッコバル／二重国籍／身体髪膚はキズだらけ／発電所建

設組合『最北』／夢にみる光景／いま思うこと  
解説 角幡唯介

### ○著者略歴 大島育雄(おおしま・いくお)

1947年、東京・東久留米市生まれ。日本大学在学中に山岳部活動で北アルプス等の山々に親しむ。1971年、同大生産工学部卒業。翌年、極地への夢を胸に、探検家の植村直己さんが住みこんでいたグリーンランドのシオラパルク村へ赴き、以来、その世界最北の村に永住。1974年、同村のアンナ・トンゲ・ニビッカングア・マミーナと結婚し、一男四女の父となる。職業、猟師(ピニヤット)。2026年現在も、ボートと6頭立ての犬橇で猟に出ている。

### ○書誌データ

書名:ヤマケイ文庫『エスキモーになった日本人』

著者:大島育雄

発売日:2026年2月17日

定価:1320円(本体価格1200円)

仕様:文庫判、356ページ(カラー口絵20ページ)

<https://www.yamakei.co.jp/products/2826050300.html>

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心とした山岳・自然科学・アウトドア・ライフスタイル・健康関連の出版事業のほか、ネットメディア・サービスを展開しています。さらに、登山やアウトドアをテーマに、企業や自治体と共に地域の活性化をめざすソリューション事業にも取り組んでいます。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:塚本由紀)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

---

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当:綿

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: [info@yamakei.co.jp](mailto:info@yamakei.co.jp)

<https://www.yamakei.co.jp/>